

MAKE BEYOND

つくるを拓く

大林組基本理念

企業理念

大林組がめざす姿、社会において果たすべき使命
「地球に優しい」リーディングカンパニー

- 1 優れた技術による誠実なものづくりを通じて、空間に新たな価値を創造します。
- 2 地球環境に配慮し、良き企業市民として社会の課題解決に取り組みます。
- 3 事業に関わるすべての人々を大切にします。

これらによって、大林組は、持続可能な社会の実現に貢献します。

企業行動規範

企業理念の実現を図り、
すべてのステークホルダーに信頼される企業であり続けるための指針

1 社会的使命の達成

- (1) 良質な建設物・サービスの提供
- (2) 環境に配慮した社会づくり
- (3) 人を大切にする企業の実現
- (4) 調達先との信頼関係の強化
- (5) 社会との良好な関係の構築

2 企業倫理の徹底

- (1) 法令の遵守及び良識ある行動の実践
- (2) 公正で自由な競争の推進
- (3) ステークホルダーとの健全な関係の維持
- (4) 反社会的勢力の排除
- (5) 適正な情報発信と経営の透明性の確保

さんしん 三箴

創業以来、受け継がれてきた精神

良く、安く、速い

ブランドビジョン

MAKE BEYOND

つくるを拓く

私たちがこれまで培ってきた「ものづくり」の技術と知見を、今という時代に
合わせ、新たな地平へと発展させたい、既存の事業の枠にとられない成長を
めざしていきたいという、大林グループの未来への想い。

サステナブルな社会の実現に向けて

大林グループは、1892年の創業以来、脈々と受け継がれる「三箴 － 良く、安く、速い」
の精神を礎として、優れた技術による誠実なものづくりを通じて空間に新たな価値を
創造するとともに、社会課題の解決に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献
してまいりました。

私どもは、建設事業で培った「ものづくり」の技術や知見を生かし、開発事業、グリー
ンエネルギー事業、新領域ビジネスなどを事業ポートフォリオに加えながら、グローバ
ルに事業を展開しています。国内建設市場が堅調に推移する中、現在、大林グルー
プは「事業基盤の強化と変革の実践」を推進しておりますが、中期経営計画2022追
補でお示した持続的成長の方向「国内建設事業を中核とし、それ以外の事業が国
内建設と同等以上の業績を創出する」グループの実現に向け、生産性の向上を始め
とする建設事業の基盤強化を継続するとともに、それぞれの事業の成長戦略を着実
に実行してまいります。同時に、いかなる事業環境の変化にも的確に対応できる大林
グループの体制を構築してまいります。

企業理念に掲げる「持続可能な社会の実現」のため、大林グループは、2050年のあ
るべき姿をObayashi Sustainability Vision2050に描いています。「地球・社会・
人」のサステナビリティ実現に向け、人々が集
う空間やまち、環境などのサステナビリティに
係る社会課題に、大林グループの技術力・総
合力をもって、事業の枠にとられず、多様な
ソリューションを提供してまいります。

代表取締役社長 兼 CEO

佐藤俊美



OUR HISTORY

大林組の歴史

1991-2016

1892年の創業以来、大林組は「誠実なものづくりの姿勢」や「技術力」という先人たちから継承してきたDNAを根幹に、東京中央停車場（現：東京駅）、関西国際空港、東京湾アクアライン、東京スカイツリー®などの、時代を象徴する数々のプロジェクトに携わってきました。日本の近代化と戦後復興を支え、経済大国への発展の礎となるインフラ整備に貢献し、変革する社会と共に新たな価値の創造に向けて挑戦を続ける、当社の130余年におよぶ軌跡をご紹介します。

日本の近代化を支え建設業の礎を築く

1892年、当社は土木建築請負業「大林店」として大阪で創業しました。折からの紡績ブームに乗った工場建設需要が草創期の当社事業を支えました。その後、大型工場や事務所の建設、港湾・鉄道などのインフラ建設事業にも進出。大阪を代表する建設会社へと成長を遂げると、1914年に竣工した東京中央停車場の工事を皮切りに、東京での地歩を固めました。関東大震災後はコンクリート造のビル建設を数多く手がけ、東京の復興に貢献。1930年代以降は、公共工事などで実績を重ね、全国規模の建設会社へと発展していきました。

1914 東京中央停車場（現：東京駅）



1931 大阪城天守閣



1933 大阪地下鉄（淀屋橋・北久太郎町間）



1892-1945

1956 北海道十勝川水系の電源開発権平ダム



1964 国立代々木競技場第二体育館



1970 「人類の進歩と調和」をテーマとした日本万国博覧会（テーマ館）



戦後の経済発展の基礎となる インフラ建設で事業を拡大

庁舎や学校、病院の再建に注力した戦後の復興期に続き、1950～60年代もダムや発電所、鉄道網や駅舎などの公共性の高い事業に数多く携わり、社会の要請に応えていきました。その後、建築技術の進歩に伴うビル建設の高層化時代に入り、西日本で最初の超高層ビルとなる大阪大林ビル（1973年竣工）など、東京や大阪で数々の超高層ビルを建設しました。東京オリンピックが開催された1964年にはタイ王国に初の海外駐在員事務所を開設し、グローバル展開をスタートしました。また、1970年には、東京支店を東京本社とし、業務活動の全社の本拠としました。

1946-1990

国内外の大規模プロジェクトを手がけ 「世界の大林組」へ

創業100年の節目を迎えた1991年以降、バブル経済崩壊後の民間需要低迷に苦しみつつも、関西国際空港や六本木ヒルズ森タワー、東京スカイツリーをはじめとした国内のランドマークプロジェクトを次々と手がけました。海外でも、台湾新幹線やフーバーダムコロラドリバー橋、ドバイメトロといった大規模プロジェクトに関与するなど、「世界の大林組」へ飛躍する舞台を広げました。一方、環境保護に対する社会的要請が強まり、当社は1992年には「環境保全行動計画」を策定し、事業活動と環境保全の両立をテーマにした取り組みを始めました。

2011 ドバイメトロプロジェクト（アラブ首長国連邦）



2018 ウォータービューコネクショントンネルおよび
グレートノースロードインターチェンジ（ニュージーランド）



2023 秋田港能代港洋上風力発電所



提供：秋田洋上風力発電株式会社

2017-

持続可能な社会の実現と さらなる企業価値向上をめざして

エスコンフィールドHOKKAIDOやシンガポールのジュエルチャンギエアポートをはじめ、国内外で新たな歴史を刻む建設を続けています。また、IoT・AI・ロボティクスを活用した技術革新に注力するほか、脱炭素社会の実現に向けて、太陽光、風力、木質バイオマス、地熱といった再生可能エネルギー電源の開発を進めるとともに、再エネ電力を活用したグリーン水素の社会実装化にも取り組んでいます。今後も、変化する多様な社会からの要請や期待に応え、新たな成長に向けて果敢に挑戦し、「地球・社会・人」のサステナビリティの実現をめざしていきます。

1997 東京湾アクアライン



2012 東京スカイツリー



2023 エスコンフィールドHOKKAIDO



建築事業

Building Construction Business

オフィス、マンション、商業施設、工場、病院や学校など、多様な用途の建築物を手がけています。計画段階から運営維持管理に至るまで、営業、設計、調達、生産、技術開発などの各部門やグループ会社が一丸となってプロジェクトを推進します。また、建物のライフサイクルを通して安全や品質、快適性、経済性、エネルギー効率などへの要望に応え、カーボンニュートラルやウェルビーイングなど社会課題の解決にも貢献してまいります。



協力：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 ©Expo 2025
撮影：株式会社伸和

2025年日本国際博覧会協会 施設整備事業 PW北東工区

所在地：大阪府大阪市

2025年大阪・関西万博のシンボル 「大屋根リング」を施工

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表した、周長約2kmの世界最大級の木造建築物「大屋根リング」(北東工区)を施工しました。また、パビリオン建築や会場整備にも携わりました。



提供：Woven by Toyota

新香川県立体育館建築工事

所在地：香川県高松市

瀬戸内海の山並みに溶け込む 多目的アリーナを建設

JR高松駅に近いサンポート高松地区に県立体育館を建設しました。高さを抑えた柔らかな曲線が特徴の屋根は、大小2個の正円が連なる形状です。最大1万人収容可能なメインアリーナに加え、サブアリーナと武道施設も備えたワールドクラスの多目的アリーナです。



撮影：LINX

TAKANAWA GATEWAY CITY THE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTH

所在地：東京都港区

国際交流拠点の象徴となるツインタワーを建設

JR高輪ゲートウェイ駅正面に位置する「THE LINKPILLAR 1 NORTH/SOUTH」を建設しました。地下3階・地上29階建ての「NORTH棟」と、地下3階・地上30階建ての「SOUTH棟」の2つに分かれたツインタワーです。国際交流拠点としての新たなまちTAKANAWA GATEWAY CITYの象徴となる建物です。

Toyota Woven City Phase1 建築本体工事

所在地：静岡県裾野市

静岡県裾野市に「Toyota Woven City Phase1 建築本体工事」を施工

ヒト・モビリティ・社会インフラが連携する、まちの形をしたモビリティのテストコースを建設しました。トヨタグループや他企業がモビリティの拡張をめざし、住民やビジターと共に実証に取り組む場です。

土木事業

Civil Engineering Business

トンネル、橋梁、ダム、河川、都市土木、鉄道など、日々の生活に不可欠なインフラを提供しています。省エネルギー、環境配慮、適切な維持管理などの観点から、調査、設計施工、維持管理のすべての段階において大林グループの技術力を結集し、社会インフラの長寿命化や利便性向上、社会への安全・安心の提供、防災・減災などに積極的に貢献してまいります。

中央自動車道 柳樽川橋他9橋 橋梁補修

所在地：岐阜県中津川市

新技術を駆使した中央自動車道の 大規模リニューアル工事

高速道路リニューアルプロジェクトの一環として、中央自動車道において8橋の床版取替他の工事を行いました。当社技術のスリムファスナーやEMC壁高欄、キャップスラブ工法の適用により、対面通行の規制期間を大幅に短縮することができました。



安威川ダム

所在地：大阪府茨木市

人と自然環境に調和した都市近郊型ダム

大阪府北部の安威川流域の抜本的な治水対策として、茨木市中心部から約7kmという市街地にほど近い場所にダムを建設しました。治水効果が大幅に向上し、住民の皆様が安心して生活できる環境の提供に寄与しました。

川西ウインドファーム

所在地：北海道稚内市、豊富町

4万7千世帯相当の電力供給能力を誇る風力発電所

道北地域にて風力発電施設を設置する「道北風力発電事業」のうち、3カ所目の発電所を建設しました。1基あたりの出力が、国内最大級である4,300kWの風力発電機を15基設置し、一般家庭約4万7千世帯の消費電力に相当する電力供給能力があります。



Osaka Metro 中央線 夢洲駅

所在地：大阪府大阪市

大阪・関西万博開催地までの唯一の鉄道ルートを構築

2025年大阪・関西万博の開催地である夢洲へ直接乗り入れる唯一の鉄道ルートのうち、夢咲トンネルからのシールドトンネル区間と、渡り線部および夢洲駅の開削トンネル区間の土木構造物を建設しました。埋立地特有の難条件を克服し、無事故で竣工しました。

開発事業

Real Estate Development Business

都心部を中心とする好立地な優良賃貸不動産を開発、保有し、入居者や利用者の皆様に安全・安心で快適な空間を提供しています。施設整備にあたっては、建設業で培った知見を生かし最新の技術や機能を取り入れています。市街地再開発における事業協力者や特定業務代行者として、また、民間大規模開発の事業者として、低炭素社会やサステナブルなまちづくりに貢献してまいります。



O-NES TOWER

所在地：タイ

タイと日本のベストミックスを追求した最先端オフィス

高架鉄道BTS「ナナ」駅に直結するオフィスビルです。大林グループが単独所有する最大の賃貸物件で、タイ大林が用地取得から計画、設計施工までをすべて自社で実施しています。LEED 認証、WELL 認証（ともにゴールド）を取得するなど、省エネやウェルネスに配慮したビルです。



提供：グラングリーン大阪開発事業者

グラングリーン大阪

所在地：大阪府大阪市

「“Osaka MIDORI LIFE”の創造」～「みどり」と「イノベーション」の融合

JR大阪駅前に公民連携で整備された約45,000㎡もの大規模で高質な都市公園「うめきた公園」を中心に、民間宅地にはオフィス、ホテル、イノベーション施設「JAM BASE」、商業施設、住宅を有する大規模複合施設です。



OAK LOGISTICS CENTER 恵庭

所在地：北海道恵庭市

寒冷地特有の気候を効果的に活用した環境配慮型の物流拠点

マルチ型物流倉庫（最大8分割）であり、建物内に車路を配置した物流施設です。冬季に排雪される雪を雪室内に溜め、雪氷熱を夏季冷房に使用する「雪冷房システム」を構築し、消費電力低減とCO2排出抑制を図ります。CASBEE 評価 A ランク、ZEB Ready を取得しました。

横浜シンフォステージ

所在地：神奈川県横浜市

多様な働き方を創出する横浜の新たなランドマーク

横浜駅徒歩圏に位置し、オフィスやホテル、店舗などを含む2棟で構成される複合ビルで、2024年3月に竣工しました。周辺施設との連携を図り、利用者に刺激や出会い、多様な働き方を提供する、みなとみらい地区の新たなランドマークとして注目されています。

新領域事業

New Business

大林グループでは、脱炭素社会の実現をめざし、国内外で再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオマス、地熱など）による発電事業や再エネからつくるグリーン水素のサプライチェーン構築など、建設や開発分野以外の事業にも積極的に取り組んでいます。時代と環境の変化を踏まえ、建設事業で培った技術やノウハウを活用し、収益基盤の多様化を実現するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献してまいります。



Te Ahi O Maui (TAOM) 地熱発電所

所在地：ニュージーランド

グリーンエネルギー事業のバリューチェーン構築に向けて

地熱などの再エネ発電所を保有するEastland Generation 社と資本提携しました。同社との協業による知見や経験を日本国内で開発中の地熱発電案件へ還元する他、当社グループが取り組むグリーン水素事業に必要な再エネ電源の確保につなげてまいります。

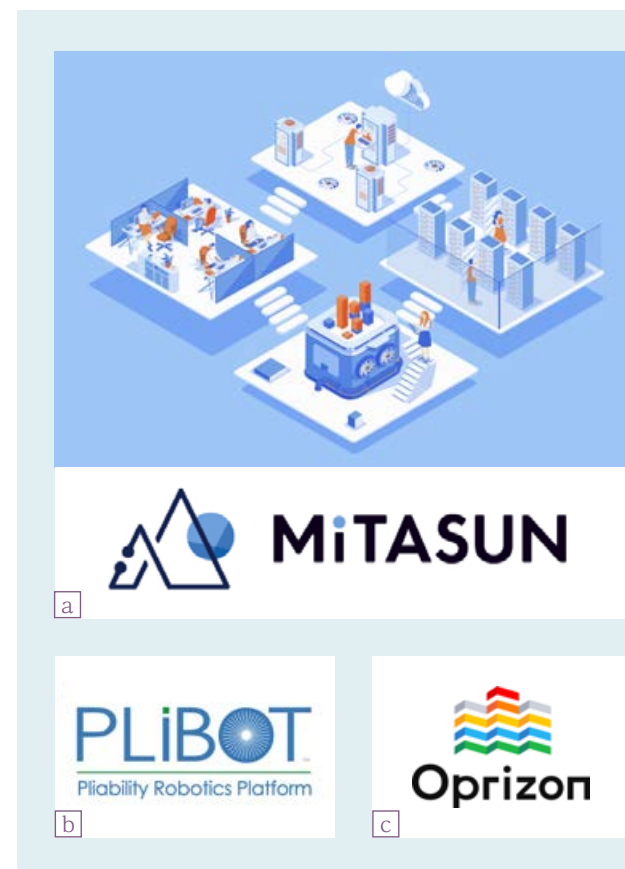


サイプレス・スナダヤ PPA (当社グループ)

所在地：愛媛県西条市

2MW の再エネ電力を供給し年間約970t のCO2 排出削減

2025年1月、サイプレス・スナダヤの工場への再エネ電力の供給を開始しました。PPAはお客様にとって初期費用をかけずに脱炭素化、電力料金の長期固定化などを実現できます。今後も引き続き、サステナブルなソリューションの提案・提供に取り組めます。



既存事業で培った技術・ネットワークを生かした新領域事業会社を設立

[a] MiTASUN 株式会社 創業：2024年11月

所在地：東京都港区

都市型DCの開発、運用を目的とした事業会社を設立

大林グループがこれまでに培ってきた建設事業のノウハウや技術力と、開発事業のネットワークや知見を活用して、空室を抱える既存ビルを中容量の電力消費に抑えたデータセンターに改修または建て替えることで、都市に新たな価値を創出し社会基盤の充実に貢献します。

[b] PLiBOT 株式会社 創業：2022年8月

所在地：東京都葛飾区

人とロボットが協働する持続可能な社会の実現をめざして

屋内搬送、屋外搬送、清掃など多様なタイプの自律作業ロボットとお客様の所有設備を一つの統合制御プラットフォームにつなげることで自律作業の一元管理を可能とし、お客様の課題に寄り添ったソリューションを提供していきます。

[c] 株式会社オプライゾン 創業：2023年2月

所在地：東京都港区

スマートビルを通じて、人々にワクワクな体験を

建物オーナーが長期にわたって安心できる運用サービスをワンストップで提供することにより、スマートビル化に必要な建設、設備、デジタル、システムすべてを統合したサービスプロバイダーのリーディングカンパニーをめざします。

海外事業

Overseas Business

国内建設事業で培った高い技術力を核に、北米、東南アジア、オセアニアなどの各地域において、グループ会社とともにさまざまな分野の建設事業を展開しています。半世紀以上にわたる海外展開により得られた、グローバルコントラクターとしての豊富な事業経験と、世界各地に広がるネットワークを生かして、地域ごとに異なる多様なニーズに的確に応えてまいります。



Cityview Oakland Waterfront Parcel J

所在地：アメリカ

コンクリート造・木造の強みを生かした集合住宅

グループ会社のウェブコーとJ.E.ロバーツ大林のJVで、カリフォルニア州オークランド市に378戸の集合住宅を施工しました。コンクリート工事に定評があるウェブコーがコンクリート部分を、木を使った建築に強みをもつJ.E.ロバーツ大林が木造フレームを担当しました。

バードパラダイス

所在地：シンガポール

シンガポールに400種3,500羽を超える鳥の動物園を施工

グループ会社の大林シンガポールが、17万㎡の鳥の動物園「バードパラダイス」を施工しました。生態系保全に配慮しながら、鳥をモチーフにしたエントランスには3D屋根材など大林グループの新技术が活用されました。同施設はOCAJプロジェクト賞を受賞しています。



エンジニアリング事業

Engineering Business

医薬品や食品などの生産施設、太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギー発電施設、建物・施設のICT活用や土壌・水質汚染対策など、さまざまな分野・用途において、最新のエンジニアリング技術を最適なコストパフォーマンスで提供しています。総合建設業として培ってきた技術やノウハウを生かし、プロジェクトの計画段階から設計、調達、施工、試運転、運営・保守に至るまで、多様なニーズに一貫して応えてまいります。



提供：千葉顕弥写真事務所

ARCALIS mRNA 原薬製造工場

所在地：福島県南相馬市

品質とフレキシビリティを兼ね備えた mRNA ワクチン原薬製造工場

国内初のmRNAワクチンの原薬・製剤一貫工場建設プロジェクトのうち、原薬製造工場(DS棟)の建物および生産設備の設計施工を一括で請け負い、フレキシブルな生産設備を備えることによって生産効率が高く、高品質な原薬製造を支える施設を実現しました。



提供：株式会社グリーンパワーステートメント

グリーンパワー深浦風力発電所

所在地：青森県西津軽郡深浦町

風力発電機19基 総出力79.8MW の風力発電所

陸上風力発電所建設において、構内集電線工事と風車電気工事の設計施工を担当しました。約2年の工事期間では、総ケーブル長37.5kmの布設と、4.2MW風車19基の電気工事、それぞれの使用前自主検査を予定どおり完了しました。

バンガバンドゥ シェイク ムジブ鉄道橋 建設事業東工区パッケージ WD-1工事 (通称：ジャムナ鉄道橋建設工事)

所在地：バングラデシュ

バングラデシュの物流のボトルネックを解消

バングラデシュの中央部を流れるジャムナ川に、鉄道道路併用既設橋に並行して、鉄道専用橋を建設しました。新型コロナウイルス感染拡大や政変の影響があったものの、契約工期内に工事を完了させ、同国物流インフラの安全性や輸送効率の改善に貢献しています。



桃園 LNG 第三基地 LNGタンク設置工事

所在地：台湾

大林組の技術力で台湾のエネルギー転換に貢献

台湾政府のエネルギー転換政策に伴い、発電所に天然ガスを供給するための受け入れ基地を設計施工で建設しました。LNG地上式タンク2基、気化設備エリアの機械設備や配管基礎・貯水ピット建設にあたり、CIMやプレキャスト工法を採用し生産性の向上を図りました。



WELCS place® (スマートビル・プラットフォーム)

所在地：神奈川県横浜市

管理者と利用者双方の利便性向上とビルの付加価値向上を実現

建物デジタル化のプラットフォーム「WELCS Place(ウェルクスプレイス)」を、大林組のPortPlusに導入しました。消費エネルギーの見える化や顔認証、Wi-Fiサブスクリプションサービスなど、省エネ、利便性、快適性の向上を実現しています。



恵下埋立地

所在地：広島県広島市

豪雨災害対策設備を備えた一般廃棄物処分場

100年に一度の豪雨に対応する調整池をはじめとした複数の防災設備を有する処分場を施工しました。二重遮水シートや土質遮水層などの表面遮水システムと、万が一浸出水が漏洩しても地中に設けた鉛直遮水壁によって浸出水を拡散させない構造となっています。

技術開発

Technical Development

大林グループがその社会的使命を果たす原動力は「技術」です。お客様の事業に貢献することはもちろん、環境への配慮、安全・安心の提供といった社会のニーズに応えるため、大林組では技術研究所を核として、技術開発に積極的に取り組んでいます。



技術研究所

1965年開設の “技術の大林”の源

技術研究所(東京都清瀬市)は、技術開発の最重要拠点です。
1965年の開設から、時代に合わせて発展を続けています。未来社会を見据えて、「技術の革新」「技術の実証」「技術のプレゼンテーション」を実践するフィールドとして、お客様や社会のニーズに応える新しい技術の開発に挑戦しています。



テクノステーション

国内初の ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル) 達成

技術研究所の中核施設です。オフィスとしての快適な室内空間を維持しながら、エネルギー消費量のすべてを施設に付随する再生可能エネルギー発電量で相殺する ZEB を達成しました。
また2017年には、日本で初めて WELL 認証をゴールドランクで取得しました。



けやきテラス

ミニマムでシンプルな「技術のショールーム」

落ち着いた雰囲気の中でコミュニケーションを深めることを目的とした施設です。低炭素型のコンクリート「クリーンクリート®」や不燃木材「アルファティンバー®」、除菌技術「マルチミスト®」など、大林グループが開発した技術を採用した「技術のショールーム」です。

オープンラボ2

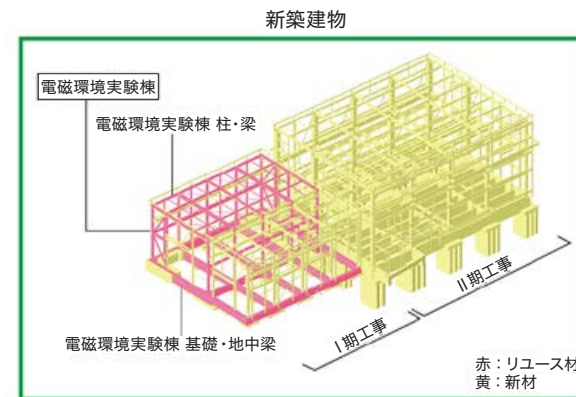
技術を「見える化」した オープンな“魅せる”実験空間

グリーンイノベーションやグローバル化に向け、時代の変化に柔軟に対応可能なフレキシブルで“魅せる”実験空間がコンセプト。脱炭素社会をめざしたコンクリート材料の研究や建設 DX 関連の技術開発などに取り組んでいます。



技術トピックス

Technology Topics



Ⅰ 建築物をリユースする取り組み

通常は建物解体後に溶解や破碎され新たな建材としてリサイクルされる鉄骨やコンクリート製の構造部材を、新築建物の構造体にリユースする国内初の取り組みを、技術研究所内の実験棟オープンラボ3新築工事で実施しています。



Ⅰ 木材の循環利用を支える技術

植林用苗木の安定供給を目的に、人工光と自然光の育成環境を組み合わせた「ハイブリッド型苗木生産システム」を開発し、鳥取県日野郡日南町にパイロットプラントを設置、主に周辺地域の林業事業者向けにカラマツの苗木を生産しています。



Ⅰ 生物多様性の保全に貢献する取り組み

20年以上にわたり生物に合った運営管理を行い、生物多様性に配慮した当社設計施工物件の「なんばパークス」の屋上公園「パークスガーデン」にて、南海電気鉄道株式会社と共同で生物調査を実施し、多様な生物が生息し繁殖していることを確認しました。



Ⅰ 安全にトンネル切羽発破を行う技術

慶應義塾大学と共同で、遠隔で力触覚を再現する技術(リアルハプティクス)を応用した自動火薬装填システムを開発し、トンネル外から遠隔で実火薬を装填し、発破することに成功しました。

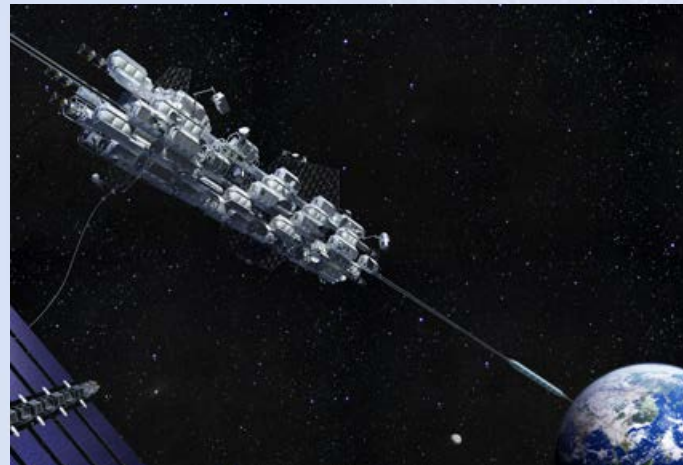
未来構想 — FUTURE VISION

大林グループでは、社会課題の解決や持続可能な社会の実現をめざすべく、革新的な未来技術を用いた先進的な社会、都市、ビジネスを構想しています。ここではその一端をご紹介します。

地球と宇宙をつなぐ

「宇宙エレベーター」建設構想

宇宙エレベーターは、人と物資を経済的かつ大量に宇宙へ搬送する輸送システムです。地球と宇宙を9.6万kmのケーブルでつなぎ、実験や研究用の施設をそれぞれの用途に適した高度に設置します。宇宙開発の進展により、今や宇宙進出は「絵空事」から社会的ニーズへと変化してきました。例えば宇宙太陽光発電や宇宙資源の探査・活用は、未来の社会的基盤となりえる重要な要素であり、宇宙観光旅行には大きな関心が寄せられています。本構想が実現すれば、宇宙関連のさまざまな分野での可能性が広がります。



森林と共に生きる街 「LOOP50」建設構想

「LOOP50」は、森林から得た資源だけで建物やエネルギーをつくり、循環させていく自立型の街です。所有する森林で50年かけて成長させた木材により毎年1区画を増築し、同時に50年が経ち役目を終えた1区画を解体して街のエネルギー源（バイオマス発電用の資源）として活用します。日本はOECD加盟国で第2位の森林面積を持ちながら、林業の衰退や過疎化により森林の荒廃が進んでいます。本構想は、日本の豊かな森林資源を最大限活用し、森の成長量に合わせて木を循環・活用することで、持続可能性と魅力ある暮らしを両立する中山間地域の街を実現します。



テクノロジーでつくる循環型農業

「COMPACT AGRICULTURE」構想

本構想は、テクノロジーの発展の先に可能となる「どのような環境下でも、地球環境を破壊することなく、そこで生活する人々にとって適切かつ適量の食糧を地産地消で供給する」未来の農業を描いています。自動化された効率的な食糧生産システム、資源の完全循環、AIやビッグデータの活用による需給コントロールなどにより、世界中のどこでも持続可能な農業を実現。生産から消費の過程で生まれる無駄な食品廃棄物をゼロにするとともにフードロスを抑制するなど多くの社会問題を解決できるだけでなく、SDGsの達成にもヒントを与えうるものです。



ウェブサイトの紹介

ウェブサイトは、ステークホルダーの皆様と良好な関係を育むコミュニケーションツールです。大林組の過去、現在、そしてめざす将来像をお伝えするコンテンツを掲載し、皆様にとって有益で便利なウェブサイトとなるよう運営しています。



<https://www.obayashi.co.jp>

実績の紹介

大林組が手がけた竣工物件を紹介しています。地域のランドマークや社会インフラなど、さまざまな建設物を施設用途や竣工年、地域から探すことができます。



<https://www.obayashi.co.jp/works>



技術・ソリューション

大林組が提供する課題解決策や技術をご覧ください。安全・安心、環境などのニーズや施設用途ごとに、紹介しています。



https://www.obayashi.co.jp/solution_technology



サステナビリティ

持続可能な社会の実現に向けた大林組の取り組みを紹介しています。良質な建設物などの提供、環境への配慮、地域社会への貢献など、事業を通じた活動を伝えています。



<https://www.obayashi.co.jp/sustainability>



 YouTube
大林組公式チャンネル



 @OBAYASHI_JP

株式会社 大林組

〒108-8502 東京都港区港南2-15-2

TEL 03-5769-1111 (代表)

<https://www.obayashi.co.jp>



UD FONT

この冊子はFSC® 認証紙を使用しています。

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

Printed in Japan